

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名 ※	人間と道徳	単位数 ※	2単位
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	金曜日・1限
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	遠隔授業
学修分野	教養教育科目（基礎科目）		
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道徳心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<p>1.さまざまな価値観が複雑に絡まりあっている社会において、多角的・批判的な思考ができるようになる。</p> <p>2.正義や道徳心を守るために、自分が所属する仲間や組織の同調圧力に安易に流されず、自律的な考えができるようになる。</p> <p>3.ひとつのものごとを深く探求し、自分の考えを的確に表現できるようになる。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 ガイダンス「あなたは正義のために自分の所属する組織を裏切ることができるか」（目標2・3）</p> <p>第2回 「なぜ人を殺してはいけないか」（目標1・3）</p> <p>第3回 いじめ考～あなたはいじめを止められるか」（目標2・3）</p> <p>第4回 なぜ児童虐待は増え続けているのか（目標2・3）</p> <p>第5回 子どもの貧困と少年犯罪（目標1・3）</p> <p>第6回 高齢者介護に家族はどこまで責任があるか（目標2・3）</p> <p>第7回 「狙われる高齢者」を若者の視点からどう考える（目標1・3）</p> <p>第8回 死は誰のものか（目標1・3）</p> <p>第9回 医療ケア児の幸福論（目標1・3）</p> <p>第10回 代理母論～あなたは他人のために子どもを産めるか（目標1・3）</p> <p>第11回 年金は若者にとって不公平化（目標1・3）</p> <p>第12回 違法薬物は犯罪か、治療の対象か（目標1・3）</p> <p>第13回 重度障害者社会を不幸にするか、社会にとって必要か（目標1・3）</p> <p>第14回 人は何のために働くのか（目標1・3）</p> <p>第15回 まとめ「これからの多様性社会に徳育が必要な理由（目標1・2・3）</p>		
評価方法 ※	毎回の授業の振り返り（80%）、最終レポート（20%）		
評価基準	<p>1.さまざまな価値観が複雑に絡まりあっている社会において、多角的・批判的な思考ができるようになったかどうか。</p> <p>2.正義や道徳心を守るために、自分が所属する仲間や組織の同調圧力に安易に流されず、自律的な考えができるようになったかどうか。</p> <p>3.ひとつのものごとを深く探求し、自分の考えを的確に表現できるようになったかどうか。</p>		

テキスト	教科書は用いない。必要な資料等は事前や授業中に配信する。
注意事項	
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	日本倫理思想史ⅡB	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	金 1
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>〈授業の概要〉 日本倫理思想史の基礎的な内容の修得をめざす。日本の思想はしばしば他の地域の文化・思想の雑居態とみなされるが、その具体像はいったいどのようなものなのだろうか。本授業では、近世から近代までの日本倫理思想史の展開を大きくおさえる。</p> <p>〈授業の目的と到達目標〉 我が国の倫理思想をめぐる豊かな教養を身につける。</p> <p>〈授業の形態〉 ・原則対面講義（対話回のみzoom）、google classroom使用。</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回☑イダンスと反省 第2回☑本倫理思想史という学 第3回☑話：日本倫理思想史はどう学ぶ《べき》か 第4回☑の共同体をめざして 第5回☑は生まれながらに善きものである 第6回☑く生きることの難しさ 第7回☑問への応答・課題 第8回☑話 第9回☑とめ（近世） 第10回☑代化とはなにか 第11回☑立自尊の精神をめぐって 第12回☑であるとともに我々でもあること 第13回☑問への応答・課題 第14回☑話 第15回☑とめ（近代）</p>		
授業形態	対面		
評価方法 ※	<p>・全3回の小課題〔600字目安〕の成果（20点×3）、質問・「問い」の提出（10点×2）、対話参加（20点） ※ただし、「対話」回に1回も出席・参加していない場合には単位を発行しない。 ・学期末に実施予定のこの授業の「学び」に関する独自アンケートへの回答を単位認定の前提条件とする。</p>		
評価基準			

テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	東南アジア政治経済論Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	金 1
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p><授業の概要> 本講義では、東南アジア地域および各国における政治経済の現状と、それぞれが抱える問題を理解することにより、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる自立した人材を養成することを目指す。</p> <p><授業の目的と到達目標> 東南アジア地域および各国に関する基本知識、それらの歴史的背景、そして政治経済の現状と、現在抱える問題を理解する。</p>		
到達目標			
授業内容	第1回☑ントロダクション: 東南アジアというまとまりと、その国々 第2回☑ャンマー (ビルマ) 第3回☑イ 第4回☑トナム 第5回☑ンボジア、ラオス 第6回☑ィリピン 第7回☑レーシア、シンガポール、ブルネイ 第8回☑ンドネシア 第9回☑チモール 第10回☑戦下の東南アジア 第11回☑SEANの発展 第12回☑南アジアの対外関係 第13回☑南アジアの人権問題 第14回☑南アジアの紛争 第15回☑とめと今後の課題		
授業形態	対面		
評価方法 ※	筆記試験		
評価基準			
テキスト			
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>		
授業シラバス			

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	日本語学	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	金曜・1限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	—
学修分野			
授業目的 ※	日本語社会におけるコミュニケーションに特徴的に見られる現象を取り上げ、言語と社会の関わりを理解します。日本語教師として必要な知識を単に詰め込むのではなく、自分が使用している日本語を客観的に観察し、練習問題にも取り組みます。そして、ことばに関わる文化的背景についても理解を深めることで、受講者一人一人が、今後、世界のさまざまな言語、多様な文化を見つめるための土台を培っていきます(DP・CP2.3)。		
到達目標			
授業内容 授業形態 ※	対面授業とオンデマンド型授業の混合型で実施します。副専攻日本語教員養成課程の必修科目ですので、受講者は日本語教育やコミュニケーションに関心のあることが前提です。教科書とワークシートを使用し、「知っていること」「習ったこと」を活かしながら、段階的に積み上げて理解していきます。毎回、講義後には小テストで確認を行い、学んだ内容を確実に身につけていきます。		
評価方法 ※	授業への取り組み(発言、受講態度、提出物、小テスト)、確認試験		
評価基準	授業への取り組み(発言、受講態度、提出物、小テスト)で60%、確認試験40%の割合で評価します。		
テキスト	遠藤織枝(編著)(2020)『新 日本語教育を学ぶ なぜ、なにを、どう教えるか』三修社		
注意事項	本科目は「日本語教員養成課程」「日本語学習支援者養成プログラム」必修科目です。		
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名 ※	心理学	単位数 ※	2単位
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	金曜日・2限
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	遠隔授業
学修分野	教養教育科目（基礎科目）		
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道徳心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学に関する基礎的な知識について理解し、その概要を説明できる。 2. 身近な心理的問題について理解し、自分の考えを述べることができる。 3. 心理学的な知識を、自分の心の働きを考えるために活用できる。 		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 授業ガイダンス・心理学の起源(目標1)</p> <p>第2回 感覚・知覚(目標1,2)</p> <p>第3回 記憶(目標1,2)</p> <p>第4回 脳研究と心理学(目標1,3)</p> <p>第5回 学習(目標1,2,3)</p> <p>第6回 無意識と精神分析(目標1,3)</p> <p>第7回 動機づけ(目標1,2,3)</p> <p>第8回 発達と発達理論(目標1,2,3)</p> <p>第9回 パーソナリティ(目標1,2,3)</p> <p>第10回 社会(対人認知・態度変容)(目標1,2,3)</p> <p>第11回 集団の心理(目標1,2,3)</p> <p>第12回 心理学の研究方法(目標1,3)</p> <p>第13回 心理学と哲学(目標1)</p> <p>第14回 ストレスと精神的健康(目標1,3)</p> <p>第15回 心理的問題とその援助(目標1,3)</p>		
評価方法 ※	<p>授業への参加態度、提出物の提出の有無と内容、期末試験の結果などから総合的に評価する。</p> <p>授業の参加態度と提出物の記入内容 30%程度、期末試験 70%程度</p>		
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学に関する基礎的な知識について理解し、その概要を説明できること。 2. 身近な心理的問題について理解し、自分の考えを述べるができること。 3. 心理学的な知識を、自分の心の働きを考えるために活用できること。 		
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
注意事項			
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名 ※	社会福祉論	単位数 ※	2
開講学期※	2023年度 前学期	曜日・時限 ※	金曜2限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	
学修分野			
授業目的 ※	誰もが社会福祉と無関係ではない。だからこそ、社会福祉諸制度の目的や歴史や諸制度の概要を理解し、人生のどのようなときに社会福祉諸制度と関わるかを理解することを主たる目的とする。また、社会福祉の理論・思想の基礎的な理解、ならびに社会福祉援助技術に込められた人間観・社会観を学習する。さらに受講生が自らの「コミュニティ政策学」の視点を育てる一助とすることも合わせて目的とする。		
到達目標	①社会福祉の体系や基本的な語句の意味を理解する。②仕事や生活を営む上で抱えた福祉課題にとって必要な社会福祉諸制度や、考え方または関連方法の基礎的知識を習得する。③「コミュニティと社会福祉」に関する自分なりの問題意識を育む。		
授業内容 授業形態 ※	(1) 社会福祉の理念・思想（ノーマライゼーション等）、(2) 社会福祉の対象理解および援助方法（障害の社会モデル、「当事者研究」）、(3) 社会福祉行財政、(4) 社会関連諸制度の概要（年金保険、介護保険、医療保険等）を理解する 基本的に講義形式で行うが、その中にアクティブラーニングの手法を導入し、福祉福祉の諸課題についての学生の主体的参加や能動的学習を重視した授業を実施する。また、DVDやビデオ等の映像資料を参考に、現実の社会問題について学び、課題や解決策をレポートする。		
評価方法 ※	①ほぼ毎回の授業での学びをまとめた「リアクションペーパー」、②2回程度の「小レポート」の質により総合的に評価する。なお、出席に関して、学生証を忘れた場合のメモによる出席は2回まで認める（3回目からは認めない）ので学生証はいつも携帯すること。		
評価基準	リアクションペーパー50点、小レポート50点		
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		
注意事項	事前・事後学習をおこなうこと。参考文献を精力的に読んでみることに。		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	現代イベリア研究Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	金 2
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>①授業のテーマと概要：本科目は21年度から開始した新設科目です。この授業では、時代を18世紀後半から20世紀・1939年のスペイン内戦の終了までに限定して、イベリア両国の政治経済の歴史の理解を深めます。国民国家を扱う以上、時代を18世紀後半から現代までに限定し、さらに政治経済の側面に注目する点がイベリア史概論と異なります。</p> <p>②授業の目的と到達目標：</p> <p>A：スペイン・ポルトガルの歴史の展開がイベロアメリカ諸国とどう共通し、どのように異なるかを理解する。(DP-3)</p> <p>B：他の欧州諸国やアフリカとの交流や反発を押さえる。(DP-7)</p> <p>C：イベリア諸国の動きを通して、農業社会・工業社会・情報社会へと移行する文明史的な見方や、多文化との共生・反発の歴史を理解する。(DP-4)</p> <p>③授業形態：主に講義形式で行います。同時に、授業に関連する歴史や地理、政治・経済や文化人類学的な質問を挟んで答えてもらいます。</p>		
到達目標			

授業内容

- 第1回☒講義】イントロ：①スペイン・ポルトガルに関するアップデートを行う。②そのあと、イベリア半島の地政学的位置を明らかにする。
- 【予習】2時間。イベリア諸国のイメージ、自分の知見を整理しておく。
- 【復習】2時間。地政学が何であるかを確認する。
- 第2回☒講義】18世紀啓蒙主義時代のイベリア諸国：カルロス三世とポンバル侯爵による産業育成と教育改革
- 【予習】2時間。イベリア両国の貿易状況をまとめておく。
- 【復習】2時間。経済の自由化、宗教の寛容化が何であるかをまとめる。
- 第3回☒講義】19世紀ナポレオン戦争時代：ナポレオンのイベリア半島侵入；自由主義憲法としてのカディス憲法制定。
- 【予習】2時間。ナポレオンの人物像と業績を調べる。
- 【復習】2時間。自由主義とは何であるかをその特徴を把握する。
- 第4回☒講義】19世紀イペロアメリカ諸国の独立と旧宗主国への影響：リエゴの反乱；ポルトガル国王の帰国とブラジル独立。
- 【予習】2時間。「リエゴ賛歌」について調べる。
- 【復習】2時間。ブラジルの独立の経緯を整理しておく。
- 第5回☒講義】19世紀イベリア諸国で並行する内乱：カルリスタ戦争とミゲリスタ戦争
- 【予習】2時間。サリカ法典について調べる。
- 【復習】2時間。両内戦の共通する特徴を把握する。
- 第6回☒講義】19世紀スペインの第一共和政
- 【予習】2時間。これと同時代的なのが明治維新。維新の背後にある思想を調べておくこと。
- 【復習】2時間。カステラールの思想についてまとめる。
- 第7回☒講義】19世紀スペインの王政・復古：穏健な王政と二大政党体制の成立。
- 【予習】2時間。カノバスの人物像を調べておくこと。
- 【復習】2時間。二大政党制の意義と限界をまとめる。
- 第8回☒講義】19世紀イベリア両国の工業発展と都市化の進展。
- 【予習】2時間。エフェル塔で有名なエフェルによる建築物を調べる。
- 【復習】2時間。ビルバオとバルセロナの工業化をまとめる。

<p>授業形態 ※</p>	<p>第9回☒講義】1898年米西戦争の帰趨とポルトガルのアフリカ植民地構想 【予習】2時間。フィリピン、キューバの当時の政情を調べておく。 【復習】2時間。ポルトガルと英国との緊張をまとめておく。</p> <p>第10回☒講義】1910年のポルトガル革命：理念先行、現実を置き去りにした憲法発布 【予習】2時間。メキシコ革命やロシア革命の理念を調べておく。 【復習】2時間。ポルトガル革命の脆弱性がどこにあったかをまとめる。</p> <p>第11回☒講義】1910年代と20年代のイベリア諸国の混乱 【予習】2時間。エサ・デ・ケイロス著「アマロ神父の罪」によりポルトガル社会の状況を調べておく。 【復習】2時間。スペインと北モロッコとの抗争を整理しておく。</p> <p>第12回☒講義】1920年代のスペイン独裁者プリモ・デ・リベラ：汎欧州的なファシズムの動向 【予習】2時間。イタリアの独裁者ムッソリーニの思想と行動を調べる。 【復習】2時間。プリモ・デ・リベラによる産業振興策の全体像をまとめる。</p> <p>第13回☒講義】スペイン内戦（1936から39年）と授業のまとめ：人民戦線と国民戦線との抗争；フランコ・サラザール体制の成立。 【予習】2時間。フランスやチリでの人民戦線の実情を調べる。 【復習】2時間。スペインにおける対立のポイントを整理しておく。</p> <p>第14回☒講義】19世紀カタルーニャにおける”文化復興”運動 【予習】2時間。カタルーニャ語の特徴を調べる 【復習】2時間。カタルーニャ復興運動の特色を整理する</p> <p>第15回☒講義】ポルトガルの独裁者サラザールとグルベンキヤン。まとめ 【予習】2時間 オスマントルコにおけるアルメニア人の位置づけを調べ</p> <p>対面</p>
<p>評価方法 ※</p>	<p>期末レポートをはじめ数回のレポート70%、授業発表貢献点30%の割合で合算して成績を出す。レポートは講評を行って返却する。</p>
<p>評価基準</p>	
<p>テキスト</p>	
<p>注意事項</p>	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>
<p>授業シラバス</p>	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	韓国語文法論Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	金 2
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>①授業のテーマと目的 この授業の目的は、韓国語能力試験（TOPIK）最上級である6級に合格できるだけの韓国語の文法能力を身に着けることです。</p> <p>②授業の目的と到達目標 韓国語が使用される国・地域における文化、社会の特質を理解するとともに、アジアのダイナミズムに目を向け、広い視野で共生のあり方を考察する力を身に付けます。 (DP3)</p> <p>③授業形式 毎回の授業で、投影されたパワーポイントのスライドを見るつとにも、教員の解説も参考にしながら、韓国語の様々な文法形式（後期に行われる「韓国語文法論Ⅱ」と合わせて173個）を学んでいきます。</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回☑オリエンテーション（授業の目的・進め方について、韓国語能力試験の概要説明）、シラバス確認・「助詞」の1～4</p> <p>第2回☑「助詞」の5～7</p> <p>第3回☑「助詞」の10～13</p> <p>第4回☑「助詞」の14～19</p> <p>第5回☑「後置詞」の1～8</p> <p>第6回☑「終止形語尾の」1～5</p> <p>第7回☑「終止形語尾」の6～9</p> <p>第8回☑「終止形語尾」の10～13</p> <p>第9回☑「終止形語尾」の14～18</p> <p>第10回☑「接続形語尾」の1～6</p> <p>第11回☑「接続形語尾」の7～12</p> <p>第12回☑「接続形語尾」の13～18</p> <p>第13回☑「接続形語尾」の19～24</p> <p>第14回☑期末試験と解説</p> <p>第15回☑今学期の学習の振り返り</p>		
授業形態	対面		
評価方法 ※	筆記試験、授業への貢献度を考慮して総合的に評価します。		
評価基準			

テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	スポーツ教育 I	単位数 ※	1
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	金曜・2限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	—
学修分野			
授業目的 ※	運動・スポーツを通じて健康の保持・増進を図り、生涯スポーツとしてのスポーツ習慣を形成し、良識ある社会人としてふるまうための一般教養を身に付ける(DP・CP)。		
到達目標			
授業内容 授業形態 ※	室内で行う運動遊びや各種スポーツ実技を通して上記の狙いの達成を図る。 運動着および室内運動靴を着用する。 実技授業であるため、フィードバックは常に個々で実施し、授業最後に総括する。		
評価方法 ※	授業への参加度(60%)・実技テスト(30%)・意欲・態度(10%)		
評価基準			
テキスト	使用しない。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	憲法	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	金曜・2限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	—
学修分野			
授業目的 ※	本講義は、憲法の保障する原理や思想を近代憲法発展の歴史のなかで捉え、また、問題点などについて諸外国との比較や判例・学説を素材として平易に具体的に理解していくことを目的とします。		
到達目標	到達目標は憲法の原理や考え方を正しく理解し説明できることです。		
授業内容 授業形態 ※	基本的に教科書にしたがって分かりやすい授業を展開していきますが、法学入門を併せて履修することが望ましいです。毎回の授業では前回学習した基礎事項・重要事項・ポイントの確認等によって学習へのフィードバックをおこない、次の授業項目へと進めていきます。 対面形式		
評価方法 ※	平常点(授業内に適示おこなうリアクションペーパーや任意課題レポート)20%、確認試験80%で評価します。確認試験の解答は試験終了後に解説します。		
評価基準			
テキスト	斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法要説』八千代出版		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	環境科学	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	金曜・2限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	—
学修分野			
授業目的 ※	習得した環境科学の基本知識を学生が十分理解し、サステナビリティな社会に貢献できる能力を強化することです。また講師の海外経験(北米、東南アジア、及びJICA専門家派遣など実務経験)から専門的な情報も提供し受講者の国際教養を深めるねらいもあります(CP1, DP1,2)。		
到達目標	到達目標は、環境に関する様々な問題を環境科学の知識で理解して自分の言葉で説明できるレベルに達成することです。具体例として、環境に関するマスコミ報道をより深く理解でき、社会に出てから直面する様々な環境問題に対し適切に判断でき、対応できるレベルです。		
授業内容 授業形態 ※	毎回イラストや写真を多用したPower Pointスライドを利用して講義を進めます。例年、多数の学生が受講するので講義形式になりますが、理数系が苦手な学生も授業テーマを自分で考えて理解できるよう分かりやすい解説をします。 授業では、適宜、ワークシートを使ったコメント記述や作図などの作業を指示し提出させることもあります。学生のフィードバックや習熟度に応じて授業計画を多少変更することもあります。		
評価方法 ※	授業中のワークシート提出など30%、後半に実施する確認テスト70%の割合で成績を評価します。確認テストの大半は択一問題(5つから正解1つを選ぶ)にする予定です。大学からの通知で対面方式以外の授業になった場合は、KCNで課題の提出を予定します。		
評価基準			
テキスト	教科書は使用せず、毎回、資料を配布します。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名 ※	子ども家庭支援の心理学	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	金・2
キャンパス※	佐倉	教室※	205
学修分野			
授業目的 ※	<p>保育者にとって、子どもへの支援のみならず保護者に対する支援は必要不可欠である。この科目は、発達段階と家族システム、親としての養育スタイルや多様な子育て環境を学び、保育者としての使命感(社会的責任・自己管理)を培い、(コミュニケーションスキル)、(チームワーク)や、(課題解決力)を身につけられるようにする。</p>		
到達目標	<p>1.生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題について理解する。 2.家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその過程を包括的に捉える視点を習得する。 3.子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4.子どもの精神保健とその課題について理解する。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>保育士資格を希望する者は必修である。講義形式である。 テキストやプリントにより基礎的な知識を身につけたうえで、学生が自身の経験や身近な出来事に振り返り、ディスカッション、ロールプレイング等を行っていく。概ね各回のワークシートなどが試験内容になる。</p>		
評価方法 ※	試験・発表(40%)、ワークシートや課題提出(60%)		
評価基準			
テキスト	『子ども家庭支援の心理学 演習ブック』松本峰雄監修 ミネルヴァ書房 (2022)		
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	帝京平成大学	学部・学科名 ※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名 ※	スポーツコンディショニング	単位数 ※	2単位
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	金曜日2限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	6-215
学修分野			
授業目的 ※	<p>スポーツにおける最大目標は、競技成績の向上です。即ち、スポーツはパフォーマンスの競い合いであり、実際の競技の場において個人の持つ最大能力の発揮が要求されます。運動およびスポーツは生体に対する極めて大きなストレスであり、そのストレス解除により大きなトレーニング効果が期待できます。したがって、運動後の回復の仕方が、重要な意味を示す事になります。この「スポーツコンディショニング」では、スポーツ医科学を基礎とした生体の運動刺激・回復過程の特徴を学びます。</p>		
到達目標	<p>運動専門家に必要とされる、運動生理学に基づくスポーツコンディショニングの基礎を理解し説明できる。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>トレーニングおよびスポーツコンディショニングに関する次の概要を説明できる。 ①疲労・ストレス ②喫煙の影響 ③貧血と対策 ④スタミナ ⑤筋グリコーゲン ⑥スプリント ⑦サーカディアンリズム ⑧心拍数の指標 ⑨体重の指標 ⑩体温の指標 ⑪水分補給 ⑫ストレッチング ⑬アイシング</p> <p>この授業は、学生が興味を持ったキーワードやテーマをもとに、グループワークやグループディスカッションを行います。</p> <p>またリアクションペーパーを用いて授業の後半に教員が設けたテーマについて記述し提出してもらいます。</p>		
評価方法 ※	<p>定期試験70%、授業内での小テストおよびレポート課題などの平常点30%</p>		
評価基準			
テキスト	<p>適宜プリントを配布します。</p>		
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	法学	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	金曜・3限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	—
学修分野			
授業目的 ※	社会生活に必然する法を理解するために必要な基本原理・原則・基礎理論、用語の学習を通して法律学(法学)への導入とし、次に社会生活における法的思考方法、法律的なものの考え方(legal mind)を具体的事例、判例などによって理解することを目的とします(CP2.3・DP2.3)。		
到達目標	それは、今日、とくとくと流れる国際社会のなかで言語習慣、考え方の相違する人達が共存していくために必要不可欠な学習に他なりません。到達目標はこれらのことを理解し日々の生活にいかせることです。		
授業内容 授業形態 ※	基本的に教科書にしたがって分かりやすい授業を展開します。毎回の授業では前回学習した基礎事項・重要事項・ポイントの確認等によって学習へのフィードバックをおこない、次の授業項目へと進めていきます。 対面形式		
評価方法 ※	平常点、確認試験で評価します。		
評価基準	平常点(授業内に適示おこなうリアクションペーパーや任意課題レポート)20%、確認試験80%で評価します。確認試験の解答は試験終了後に解説します。		
テキスト	斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法要説』八千代出版		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経済学科
科目名 ※	産業組織論Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	金-3
キャンパス※		教室※	309
学修分野			
授業目的 ※	<p>産業組織論はミクロ経済学の一応用分野である。主要な経済主体である企業の行動、企業の集合体である産業、それらの舞台となる市場構造そのものを分析対象とする。そのなかでも特に企業や産業間での相互作用を通じた企業の競争戦略を中心に分析する。</p> <p>本科目では必要なツールであるミクロ経済学の復習を中心に構成されるので、より応用的なトピックについては「産業組織論Ⅱ」で扱うことになる。よって「産業組織論Ⅱ」も履修することを前提にしてほしい。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、とくに【（知識、技能）】に資する科目である。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の利潤最大化行動について、数式を使って説明できる。 ・完全競争市場と不完全競争市場における違いを説明できる。 ・自然独占と規制について実例をあげて説明できる。 		
授業内容 授業形態 ※	<p>参考書をベースに、以下のトピックを扱う。</p> <p>第01回 イン트로ダクション：産業組織論について</p> <p>第02回 産業組織分析の基礎1：完全競争と不完全競争・消費者行動と需要の価格弾力性</p> <p>第03回 産業組織分析の基礎2：費用の諸概念と企業の行動</p> <p>第04回 産業組織分析の基礎3：市場均衡と経済厚生</p> <p>第05回 産業組織分析の基礎4：利潤最大化行動と微分</p> <p>第06回 独占企業の価格設定1：独占企業の価格設定と非効率性</p> <p>第07回 独占企業の価格設定2：価格差別の手段と効果</p> <p>第08回 独占企業の価格設定3：市場分割による価格差別・二部料金と抱き合わせ</p> <p>第09回 自然独占と規制1：費用逓減産業と自然独占</p> <p>第10回 自然独占と規制2：公正報酬率規制</p> <p>第11回 自然独占と規制3：自然独占分野の規制緩和・民営化</p> <p>第12回 自然独占と規制4：インセンティブ規制</p> <p>第13回 参入の経済効果1：参入の経済効果</p> <p>第14回 参入の経済効果2：コンテストブル市場理論</p> <p>第15回 参入の経済効果3：参入規制と規制緩和</p> <p>※ なおスケジュールについては進捗状況により変更される場合がある。</p>		
評価方法 ※	<p>以下を評価ポイントとし、それぞれの加重平均で最終評価とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業ごとにだされるクイズ（40%） ・総合クイズ（60%） <p>課題については返却後に結果についてフィードバックを行う。</p>		
評価基準			

テキスト	指定なし。 基本的に講義スライドを使用する。ただし以下にあげる参考書を適宜参照すること。
注意事項	「初級ミクロ経済学」，「経済経営数学入門Ⅰ・Ⅱ」を履修済み，または履修中であることが望ましい。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経営学科
科目名 ※	経営組織論Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	金-3
キャンパス※		教室※	405
学修分野			
授業目的 ※	<p>企業は組織の一形態である。現在の企業活動は極めて複雑であることから、組織の基礎理論を習得し、これを活用することが望まれている。また、人は様々な組織に関係しており、組織の理解は日常活動においても有益である。</p> <p>本講義では、組織の構成要素である「個人」の行動、その集まりである「グループ」の働き、組織目的の達成のためにそれらに作用する「組織の構造・システム」について深く理解するとともに、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨くことを目的とする。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（知識、技能）、（思考力・判断力・表現力等）（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）】に資する科目である。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における企業の活動・役割について、多面的に考察し、説明できる。 ・概念枠組と用語を用い、組織における個人・集団の振る舞いや、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を理解し、説明できる。 ・実際の経営組織の活動において発生する課題をみつけ、議論・検討することができる。 		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 経営組織論の基本的枠組み</p> <p>第2回 個人行動（1）個人行動の基礎</p> <p>第3回 個人行動（2）動機づけ理論①（内容理論）</p> <p>第4回 個人行動（3）動機づけ理論②（過程理論）</p> <p>第5回 個人行動（4）個人の意思決定</p> <p>第6回 グループの働き（1）集団行動</p> <p>第7回 グループの働き（2）コミュニケーション</p> <p>第8回 グループの働き（3）リーダーシップ</p> <p>第9回 グループの働き（4）影響力</p> <p>第10回 グループの働き（5）コンフリクト・マネジメント</p> <p>第11回 組織の構造・システム（1）組織化の原理</p> <p>第12回 組織の構造・システム（2）組織構造</p> <p>第13回 組織の構造・システム（3）組織と個人の関係①（雇用管理）</p> <p>第14回 組織の構造・システム（4）組織と個人の関係②（評価・報酬管理）</p> <p>第15回 組織のマネジメント</p>		
評価方法 ※	<ul style="list-style-type: none"> ・最終試験（65％）と、課題・小テスト・グループワーク等の成果・授業中の発言内容（35％）による総合評価。 ・小テストや課題は、授業内で全員に対するフィードバックを行う。 		
評価基準			

テキスト	特に指定しない。特に指定しない。予習及び復習課題として使用する学習資料（動画含む）は、講義時に指示する。
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義は主に板書を用いて進めるので、経営組織論の専用ノートを用意すること。小テスト等で持込を許可する場合には、「ノート」は自筆のみ可とする。なお、板書の資料配布は行わない。 ・ 「経営学入門」の内容を理解していること。また、「マネジメント概論」を履修済み（または履修中）であること。本講義の理解を深めるために「経営組織論Ⅱ」を合わせて受講することを強く希望する。 ・ 理解促進のため、取り扱う題材について、アルバイト先など自分が所属する組織に当てはめたり、ニュースや企業HP等を確認したりしたうえで、積極的に自分の考えを講義中のグループワークや課題等でアウトプットすること。 ・ 他の履修者の迷惑になる行為（携帯電話の使用（イヤホン使用も含む）、私語等）は一切禁止する。注意が守られない場合、以後の講義への参加を認めない等、厳しく対処する。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経営学科
科目名 ※	財務会計論Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	金-3
キャンパス※		教室※	408
学修分野			
授業目的 ※	<p>財務会計は、企業が株主や債権者などの企業外部の利害関係者に対して、経営成績や財務状態を報告することを目的とした会計です。企業が作成する財務諸表は、情報提供機能と利害調整機能を十分に果たすことが求められます。</p> <p>本講義では、財務会計の基本的な概念や理論を学び、企業が財務諸表の作成・開示を行うにあたって準拠すべき考え方や具体的な会計処理の計算構造を理解することを目指します。</p> <p>この科目は、卒業認定・学位授与方針のうち、特に【（知識、技能）】に資する科目です。教員は、国内・海外の金融機関、監査法人系コンサルティング会社、メガバンクにて勤務経験があります。その実務経験を基に、財務会計における主な論点や実務上の課題について、講義を行います。</p>		
到達目標	<p>本講義の到達目標は以下の2点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会計公準、会計原則その他の会計基準および会計処理手続きについて理論的に説明できる。 2. 個別の取引に対して会計処理の方法が採用されている理由、いくつかの代替的処理方法の中でこの方法が用いられている根拠を理論立てて説明できる。 		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回：ガイダンス、財務会計の機能と制度 第2回：利益計算の仕組み（貸借対照表と損益計算書） 第3回：会計理論と会計公準 第4回：利益測定と資産評価の基礎概念 第5回：現金預金と有価証券 第6回：棚卸資産と売上原価①（売上原価） 第7回：棚卸資産と売上原価②（期末評価） 第8回：中間試験、財務会計の役割 第9回：有形固定資産と減価償却①（取得原価と減価償却） 第10回：有形固定資産と減価償却②（減損会計、リース会計） 第11回：負債①（引当金） 第12回：負債②（社債他） 第13回：株主資本と純資産①（払込資本） 第14回：株主資本と純資産②（稼得資本） 第15回：まとめとディスカッション（テーマは事前に通知します）</p>		
評価方法 ※	<p>課題・ディスカッションでの貢献25%、中間試験25%、期末試験50%の加重平均による成績評価とします。</p> <p>課題については授業内で解説を行います。中間試験については採点後に返却し、解説を行います。</p>		
評価基準			

テキスト	桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、最新版 授業内でレジュメを配布します。
注意事項	商業簿記Ⅰ・Ⅱの内容を履修していると、この科目の理解促進に役立ちます。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名 ※	人間関係論	単位数 ※	2単位
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	金曜日・6限
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	遠隔授業（オンデマンド）
学修分野	教養教育科目（基礎科目）		
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道德心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<p>1.様々な人間関係のあり方について理解する。</p> <p>2.様々な組織や集団における人間関係の特徴を理解する。</p> <p>3.人間関係で予想されるトラブルを理解し,学んだ知識を活用して解決法を考えることができる。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 印象・対人認知の仕組み(目標1)</p> <p>第2回 対人魅力の規定要因・親密性(目標1)</p> <p>第3回 対人コミュニケーション・非言語的コミュニケーション(目標1)</p> <p>第4回 説得(目標1,3)</p> <p>第5回 集団と個人(目標1,2,3)</p> <p>第6回 集団による問題解決(目標2,3)</p> <p>第7回 攻撃行動・暴力(目標1,3)</p> <p>第8回 虐待(目標1,3)</p> <p>第9回 性格と自己理解(目標1)</p> <p>第10回 家族における人間関係(目標1)</p> <p>第11回 友人関係と恋愛関係(目標1)</p> <p>第12回 子どもの人間関係・学校での人間関係(目標1)</p> <p>第13回 人間関係の構築に役立つ方法(目標1,3)</p> <p>第14回 自己と他者の双方を尊重する自己主張の方法(目標3)</p> <p>第15回 インターネットに関わる交流(目標1,3)</p>		
評価方法 ※	<p>授業への参加態度，提出物への記入内容，期末試験の結果などから総合的に評価する。</p> <p>授業態度・提出物の記入状況30%程度，期末試験 70%程度。</p>		
評価基準	<p>1.様々な人間関係のあり方について理解し，概要を説明できること。</p> <p>2.様々な組織や集団における人間関係の特徴を理解し，概要を説明できること。</p> <p>3.人間関係で予想されるトラブルを理解し,学んだ知識を活用して解決法を検討できること。</p>		

テキスト	書籍名 ワークショップ 人間関係の心理学 著者名 藤本忠明・東正訓 出版社 ナカニシヤ出版 価格 2000 ISBN 978-88848-833-4
注意事項	Googleクラスルームを用いて遠隔授業（オンデマンド授業）を行う。
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項